

（様式１）実施報告書

１ 応募者情報

（１）応募者団体情報

団体名	群馬県
-----	-----

（２）都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

○指定の有無 有・無

○指定の内容

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

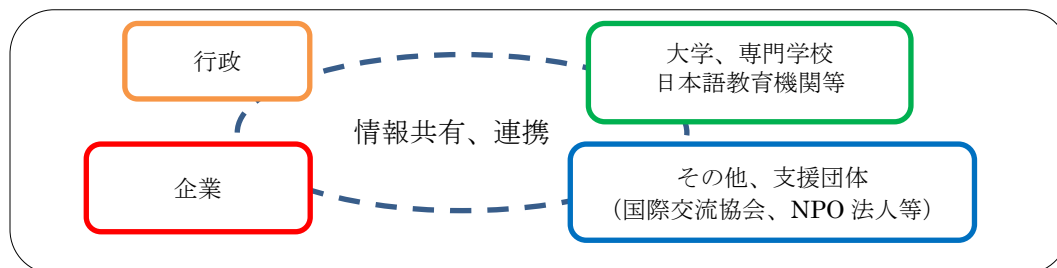
２ 事業の概要

（１）全体概要

①事業の名称	群馬県における地域日本語教育体制整備事業
②目的等	
1 目的 日本語教育に関する様々な関係者により総合調整会議を設置し、地域の課題を研究しながら本県における日本語教育の体制づくりを行う。従来から外国人県民が多く「生活者としての外国人」に対する日本語教育を進めてきた地域に対しては、更なる外国人県民の増加とその多様化に対応できるよう取組を支援することを目的とする。また、日本語教育の取組が行われてこなかった地域に対しては、地域の状況とニーズを踏まえた上で、県内先進地域の取組を波及させ、日本語教育の芽出しを支援することを目的とする。	
2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像 【現在の状況：図示も可】 当該事業の着手前は、日本語教育に関わる各関係機関がそれぞれ独自に日本語教育を進めてきた。	
行政 大学、専門学校 日本語教育機関等 企業 その他、支援団体 (国際交流協会、NPO 法人等)	

【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

当該事業により、日本語教育に関わる各関係機関が、全ての外国人県民に必要な「生活者としての外国人」に対する日本語教育について情報共有や事業の連携を行うことで、県内全域で外国人県民や地域のニーズに応じた取組を進められる体制を目指す。



(2) 令和5年度事業の概要

①事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日（12カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	
前年度は、1名の総括コーディネーターと2名の地域日本語教育コーディネーターを配置し、3回の総合調整会議を開催した。県内の日本語教育に関しての情報・課題の共有や、県の日本語教育推進施策についての協議を行いながら、各事業を進めることができた。 県事業として、日本語学習支援ボランティアの養成及びスキルの維持・向上に関する事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響や散在地域での学習支援等オンライン学習支援が求められることから、オンラインでの開催を取り入れた。養成講座では、前年度初めて「全回オンライン」のコースを開催し、対面のコースでも半分はオンラインで実施した。講座内容に取り入れるだけでなく開催方法をオンラインにしたことで、オンラインでの学習支援に対応できるボランティアの養成をより効果的に行うことができた。また、日本語教室の関係者が集う地域日本語教育ミーティングを開催することにより、地域の日本語教室で実際に日本語学習支援に携わっている者同士の情報共有や交流等を実施でき、日本語教室の活性化に繋がっている。 さらに、間接補助事業者として地域日本語教室を開催する市町村等は、令和2年度の3団体（申請時は5団体）から4団体（令和3年度、申請時は5団体）、6団体（令和4年度、申請時は7団体）と例年増加している。 以上から、当該事業に関する計画は順調に進んでいると判断する。	
③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）	
成果については、②記載のとおり。 課題については、多くの日本語教室において人材不足であること。新型コロナウイルス感染症により実施・検討し始めたオンライン日本語教室が確立していないこと。また、県として県内全域での日本語学習機会の提供を目指しているものの、地域によっては組織や予算の都合により日本語教室開催に向けた体制づくりが難しい市町村や国際交流協会があること。外国人住民が急増しているが山間地等のため従来の対面式日本語教室の開催が難しい地域があることや、そのような地域の在住外国人へのオンライン学習支援が整備されていないこと。	

④令和5年度の目標

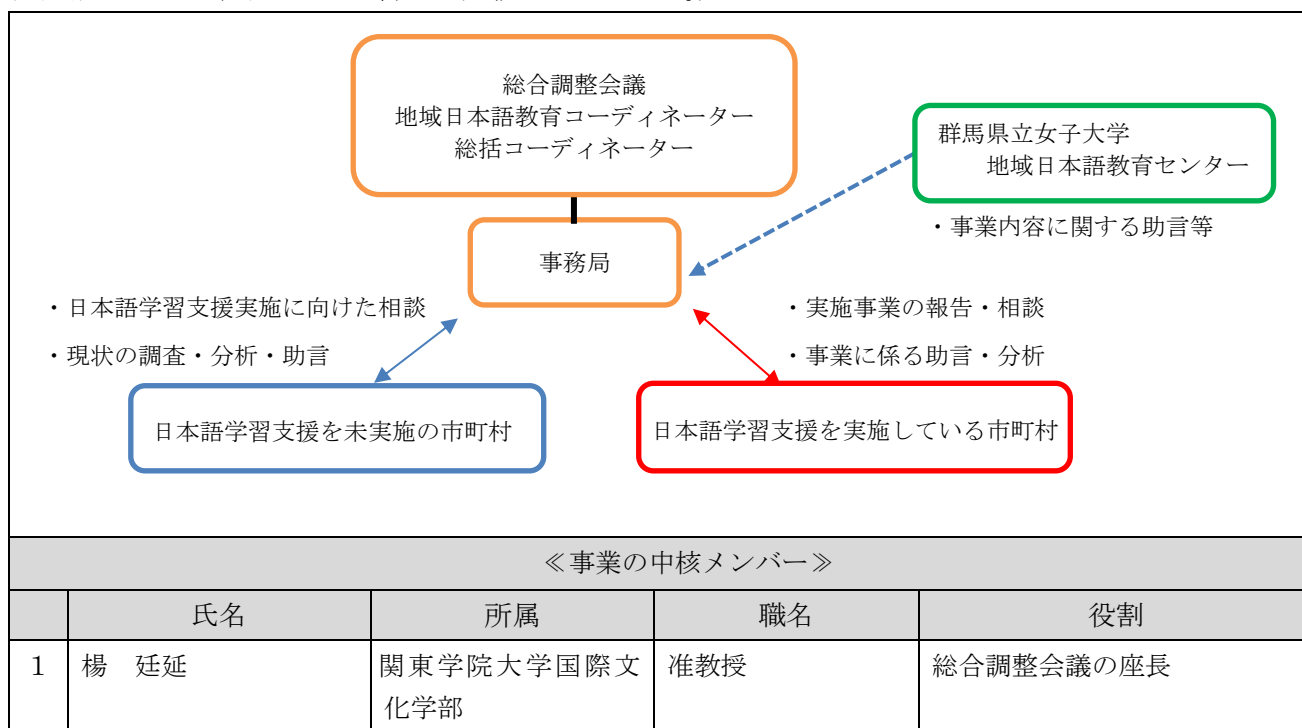
- ・前年度に実施した中間評価を基に、県全体の日本語教育の方針を検討する。
- ・日本語学習支援者へオンライン技術の向上の機会を提供することにより、人材不足の解消や多様化するニーズへの対応を図る。
- ・県内各地で活躍する日本語学習支援者が、互いに課題を共有しネットワークを構築できる場を提供することや、地域日本語教育コーディネーターによる教室視察や助言を行うことにより、地域日本語教室の更なる活性化を図る。
- ・文化庁の補助金や、教室開設・運営に必要なノウハウを提供することで、空白地域における日本語学習環境の整備を支援する。

⑤令和5年度主な取組内容

- ・日本語学習支援ボランティア養成事業
- ・外国人日本語学習支援ボランティア養成事業
- ・日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修
- ・地域日本語教室ミーティング
- ・地域日本語教育コーディネーターによる教室巡回や助言
- ・市区町村・地域国際交流協会等が実施する地域日本語教室支援等

3 事業の実施体制

(1) 実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。）



2	本堂 晴生	NPO 法人 G コミュニティ	代表理事	地域日本語教育コーディネーター
3	小林 あけみ	NPO 法人多文化共生ぐんま	—	地域日本語教育コーディネーター

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- ・総合調整会議において、様々な日本語関係者と意見交換・情報共有を行った。
- ・地域日本語教室ミーティング等において、地域日本語教育コーディネーターを活用し、現場の状況を把握しつつ県の方針を決定した。
- ・地域日本語教室を運営する県内の各市町村・国際交流協会とは、意見交換・情報共有を行いながら、連携して取り組んだ。特に、本事業を活用して取り組む団体とは、密に連携した。
- ・地域日本語教室が未設置の地域について、情報提供を通じて、日本語教室の開設等を支援した。

4 令和5年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	楊 廷延	関東学院大学国際文化学部	准教授	議論のとりまとめ、全国の事例の紹介
2	林 英俊	(公財)群馬県観光物産国際協会	総務国際課長	県国際交流団体からの意見
3	糸井 昌信	大泉国際交流協会	会長	日本語教室を実施する国際交流団体からの意見
4	本堂 晴生	NPO 法人 G コミュニティ	代表理事	日本語教育現場からの意見
5	若林 スエリ	NPO 法人伊勢崎日本語ボランティア協会	理事	外国人学習者としての意見
6	星野 美樹	有限会社農園星ノ環	労務管理担当	外国人を雇用する経営者としての意見
7	清水 太郎	群馬県商工会連合会	経営支援課長	外国人雇用企業への支援をする側からの意見

8	周藤 健司	群馬県教育委員会 義務教育課	夜間中学準備室夜間中 学準備係補佐	家庭及び学外における子供の日本 語教育に係る課題や対策
9	毒島 章	群馬県教育委員会 高校教育課	教科指導係長	高校生への日本語教育に係る課題 や対策
10	新井 努	高崎市国際交流協 会	コミュニケーション支 援部会長	地域の日本語教室からの意見
②実施結果				
実施回数	3 回			
実施 スケジュール	第 1 回開催 5 月 1 1 日（木）10:30～12:00（1 時間 3 0 分） 第 2 回開催 1 1 月 6 日（月）10:30～12:00（1 時間 3 0 分） 第 3 回開催 2 月 1 9 日（月）13:30～15:00（1 時間 3 0 分）			
主な検討項目	・ 地域日本語教室ミーティング等で把握した地域のニーズへの対応 ・ 本県で目指すべき日本語教育体制についての提言 ・ 当年度実施事業に対する提言及び次年度に向けての取組内容の検討 ・ 群馬県の「基本的な方針」の検討			
（取組②－１）総括コーディネーターの配置				
・ 関係機関との連携・協力が主たる業務となること、地域日本語教育コーディネーターもまだ少数であるこ とから、引き続き事務局（群馬県）から選任した。 ・ 2 名配置の地域日本語教育コーディネーターの取りまとめ等を担った。				
（取組②－２）地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組				
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】 ・ 地域日本語教育コーディネーターを 2 名配置した。 ・ 活動地域は、県内で最大の外国人人口を抱える伊勢崎市や前橋市を含む県中部（中毛）地域及び、太田市 や大泉町の集住地域を含む県東部（東毛）地域を中心に、県内全域とした。 ・ 県内の地域日本語教室を訪問し、ニーズ、課題及びその教室の特性等に関するヒアリングを行ったほか、 求めに応じて助言等も行った。				
（取組②－３）調査・推進計画策定コーディネーターの配置				
取組なし				
【重点項目】				
（取組③）日本語教育に関する基本的な方針に必要な地域の実態調査、基本的な方針の作成				
取組なし				

(取組④) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組
・文化庁や県事業の情報提供、地域日本語教室に関する市町村への照会と要望の取りまとめ 日本語教室に関する文化庁や県事業を市町村等へ情報提供するとともに、本事業による補助を希望する教室等を把握し、間接補助事業者として来年度事業が実施できるよう取りまとめた。 (1) 地域日本語教室ミーティングの開催 地域日本語教室の関係者等が集まり意見交換や課題共有を行うためのミーティングを開催した。地域日本語教育コーディネーターが進行を行い、助言や意見集約を担った。従来、地域ごとの対面開催と全県対象のオンライン開催で実施していたが、今年度は広く関係構築や情報共有・意見交換ができるよう、初めて全県を対象に対面開催で実施した。 【対象】 地域日本語教室の代表者、日本語教育機関の関係者・学習支援者、市町村の日本語教育担当者（オブザーバーとして参加） 【実施者】 群馬県 【実施回数】 1回 【実施日時】 7月31日（月）14:00～16:00（2時間） 【実施場所】 群馬県庁舎（前橋市） 【内容】 地域日本語教育コーディネーターによる講話、日本語教室による事例発表（県内4地域各1教室）、意見交換（実施状況や課題の共有、地域日本語教育コーディネーターによる助言）、情報共有 【参加者】 23人 (2) 地域日本語教室巡回の実施 県内各地の日本語教室を巡回し、教室見学や関係者との意見交換を行った。実際の教室を見ることにより地域日本語教育コーディネーターが県内の日本語教室のより具体的な状況を把握できた。また、地域日本語教室ミーティングと比較し、教室関係者との間でより綿密な意見交換を行うことができた。 【対象】 県内の地域日本語教室のうち、巡回を希望する教室 【実施者】 群馬県 【実施回数・場所】 3教室（太田市日本語教室、大泉町日本語教室、嬭恋村日本語教室） 【実施日時】 太田市 2月25日（日）14:00～16:00（2時間） 大泉町 2月28日（水）19:00～21:00（2時間） 嬭恋村 3月13日（水）19:00～21:00（2時間） 【内容】 教室見学、意見交換
(取組⑤) 市区町村への意識啓発のための取組
取組なし

(取組⑥) 日本語教育人材に対する研修

地域日本語教室で活動する日本語学習支援ボランティアについては、ベテランボランティアの高齢化による人材不足や、日本語教室未設置地域で活動する人材の不足等の課題がある。令和5年度は、(1) 主に日本語教室未設置地域で活動する日本語学習支援ボランティアの養成、(2) 地域を担う外国人日本語学習支援ボランティアの養成、(3) 活動中の学習支援ボランティアのスキルアップのための研修、の3事業を実施した。

(1) 日本語学習支援ボランティアの養成事業

主に日本語教室未設置地域で活動する日本語学習支援ボランティアの養成を行った。

- 【開催時期】①桐生会場 10月1日(日)～11月5日(日) 10:00～12:00(2時間)
②安中会場 11月11日(土)～12月16日(土) 14:00～16:00(2時間)
③オンライン 11月12日(日)～12月17日(日) 10:00～12:00(2時間)
各6回(①・② 対面開催3回、オンライン開催3回)

【会場】①桐生会場：昭和公民館 / ②安中会場：あんなかスマイルパーク / ③オンライン：Zoom

【対象】日本語教育に興味関心があり、地域日本語教室で活動する意欲のある者

【参加者】32人(①桐生会場：9人 / ②安中会場：13人 / ③オンライン：10人)

【実施者】群馬県(委託先：株式会社アッコー)

【内容】第1回：地域日本語教育についての概要、ボランティアの心得

第2回：日本語基礎知識とオンライン指導方法

第3回：日本語指導法、ICTを使った指導法

第4回：学習者に合わせた指導

第5回：模擬授業

第6回：ディスカッション

(2) 外国人日本語学習支援ボランティアの養成事業

地域日本語教育を担い、地域のキーパーソンとなる外国人日本語学習支援ボランティアの養成を行った。

【開催時期】7月9日(日)～12月10日(日) 全11回

第1～9回 13:30～17:30(4時間)、第10～11回 14:00～16:00(2時間)

【会場】伊勢崎市紺の郷、伊勢崎市民プラザ

【対象】一定以上の日本語能力があり、地域の外国人住民へ日本語や生活に関する知識を教えることに
関心のある外国人

【参加者】8人

【実施者】群馬県(委託先：NPO法人Gコミュニティ)

【内容】第1回：在留外国人の現状と課題、外国人キーパーソンの役割・心構え、やさしい日本語

第2回：学習目的と指導方法、日本語指導者の心構え、日本語の特徴

第3回：コースデザインの基礎、シラバスと教授法、教材・教具

- 第4回：初級の教え方、授業デザイン・組み立て方
 第5回：中級以上の教え方
 第6回：社会制度や社会生活、経営者から見た実情・要望、ボランティアの体験談
 第7回：子どもに対する教え方、日本語教室の運営
 第8回：就労者に対する教え方、日本語能力試験対策
 第9回：オンライン授業と対面授業、著作権、評価と報告
 第10回・第11回：模擬授業、フィードバック

(3) 日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修

活動中のボランティアのスキルとモチベーションの維持・向上のための研修を行った。

【開催時期】①第1回研修：9月28日（木）13:00～15:00（2時間）

②第2回研修：10月26日（木）10:00～12:00（2時間）

③講演会：10月14日（土）14:00～16:00（2時間）

【会場】①②研修：オンライン（Zoom）／③講演会：群馬県立女子大学

【対象】地域日本語教室で日本語教育に携わっている者、日本語教育に関心のある者等

【参加者】118人（①第1回研修：32人 / ②第2回研修：30人 / ③講演会：56人）

【実施者】群馬県（委託先：群馬県公立大学法人（群馬県立女子大学））

【内容】①第1回研修：「学習者がもっと話したくなる・質問したくなる活動とは？」

ー楽しさと学びをつなげる仕掛けを考えるー

②第2回研修：「教えない教え方について」

③講演会：「共生」をさまたげる「あいまいな日本語」

(取組⑦) 地域日本語教育の実施

実施するものに○ ☐ 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

☐ 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

取組なし

(取組⑧～⑮) その他の取組

取組なし

2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育

・群馬県にある3市町（前橋市、沼田市、大泉町）が実施する日本語教室に対して補助を行った。

(1) 前橋市

【名称】前橋市在住外国人のための日本語教室（既設）

【目標】在住外国人が前橋市で快適に生活できるような日本語学習の支援をする。また、学習支援を通して、地域社会でのルールやマナー、日本文化について、在住外国人が理解を深められるようにする。

【実施回数】98回（1回1時間30分）

○前橋市中央公民館：毎週水曜日・土曜日 各曜日3クラス）

水曜日 1期：13回 2期：12回 3期：8回

土曜日 1期：12回 2期：13回 3期：7回

○前橋市総社公民館（木曜日 1クラス）

1期：13回 2期：12回 3期：8回

【受講者数】95人（2か所）

【実施場所】前橋市中央公民館・前橋市総社公民館

【受講者募集方法】募集チラシ配布、市の広報誌・ホームページ、前橋市国際交流協会ホームページ、SNSによる周知

【内容】受講する外国人の日本語習熟度に応じてクラス分け（入門・初級・中級）を行ったうえで、日本語教室を開催した。学習計画は受講者の習熟度やニーズを考慮して作成した。

I 入門クラス：ひらがな・カタカナの読み書きができない人

II 初級クラス：読み書き、簡単な会話ができる人

III 中級クラス：読み書き、日常会話ができる人

【開始した月】5月

【講師】9人（うち日本語教師 9人）

【関係機関との連携】なし

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

(2) 沼田市

【名称】沼田市日本語教室（既設）

【目標】外国人住民を対象に、生活を送るために必要な日本語能力の習得を目指し、日本語指導を実施する。

【実施回数】38回（1回1時間30分）

【受講者数】38人（38人×1か所）

【実施場所】株式会社グリフエデュケーション

【受講者募集方法】市ホームページに掲載、市民課窓口での転入外国人へお知らせ配布、

市外国人相談窓口で日程表配布、沼田市国際交流協会の交流談話サロンで日程表配布

【内容】外国人住民のニーズに応じた授業を実施した。

具体例：日本語能力試験N3に合格したい、日本で生活する上で必要となる情報を教えてほしい、日常会話を教えてほしいなど

【開始した月】 4月

【講師】 9人（うち、日本語教師 0人）

【関係機関との連携】 日ごろ勉強している日本語でスピーチをする機会として、沼田市国際交流協会主催の「日本語スピーチ交流会」を案内し、参加してもらった。また、その他の交流事業への参加も同様に周知し、地域に愛着を持って暮らしてもらえる一助となるよう周知した。

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

（3）大泉町

【名称】 大泉国際交流協会日本語講座通年コース（既設）

【目標】 日本での生活に必要とされる日本語を習得すること

【実施回数】 128回（1回2時間）

【受講者数】 174人（174人×1か所）

【実施場所】 大泉町公民館南別館

【受講者募集方法】 町広報、HP、一元的相談窓口での案内

【内容】 日本での生活に必要な基礎的な日本語を学ぶための講座。個別指導方式で、受講生の日本語レベルを問わず、年間を通じて開催しているため、受講生が各々のペースで学習できる。

【開始した月】 4月

【講師】 13人（うち、日本語教師 0人）

【関係機関との連携】 なし

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

・群馬県にある1市（沼田市）が実施する日本語学習支援者養成研修に対して補助を行った。

（1）沼田市

「日本語学習支援ボランティア養成講座」の実施（既設）

地域で生活する外国人住民等に生活に必要な日本語を教えるなど、日本語教室等での学習支援に興味のある方を対象とした、「日本語を通じて外国人住民と地域をつなぐボランティア」を養成するための講座を開催した。日本語教室の質の向上と、新規講師の発掘も図る。

【開催時期】 1月13日（土）～2月17日（土）10:00～12:00（2時間）

【会場】 テラス沼田

【対象】 日本語教室等での学習支援に興味のある方、現日本語教室講師

【参加者】 11名

【講師】 株式会社F L S 本間 昌治郎 氏

【内容】

- ・地域における日本語教室 相手を知ろう
- ・日本語学習支援ボランティアの役割
- ・日本語学習支援ボランティアの活動に役立つ基礎知識

- ・学習者に合った日本語学習支援の方法
- ・模擬演習（対面授業）
- ・模擬演習（オンライン（Zoom）授業）

（取組②）取組１以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

・群馬県にある４市１町（伊勢崎市、館林市、渋川市、安中市、甘楽町）の国際交流協会が実施する日本語教室や日本語教育に関する取組に対して補助を行った。

（１）伊勢崎市国際交流協会

【名称】伊勢崎市日本語教室 第１期・第２期（既設）

【目標】日本語及び生活ルールを学ぶ学習機会の提供

【実施回数】４０回（１回２時間）（１０回×２講座×２期）

【受講者数】１４３人（１期７８人 ２期６５人）

【実施場所】伊勢崎市紺の郷市民交流館

【受講者募集方法】広報いせさき、市ホームページ、協会ホームページ、協会 Facebook、リーフレット配布

【内容】日本語と生活ルールを学ぶため、市内在住または在勤の外国人住民を対象とした日本語教室を NPO 法人伊勢崎日本語ボランティア協会へ委託し開催

【開始した月】５月

【講師】第１期２０人（うち、日本語教師 ２人）、第２期１８人（うち、日本語教師 ２人）

【関係機関との連携】なし

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

【名称】伊勢崎市オンライン日本語教室 前期・後期（既設）

【目標】オンラインで日本語等を学ぶ学習機会の提供

【実施回数】４０回（１０回×２講座×２期）

【受講者数】４７人（前期２６人 後期２１人）

【実施場所】オンライン（ビデオ通話アプリを使用）

【受講者募集方法】広報いせさき、市ホームページ、協会ホームページ、協会 Facebook、リーフレット配布

【内容】日常生活に必要な日本語能力が十分でない外国人住民を対象とした日本語及び生活ルールを、リモート環境で学ぶ教室を開催

【開始した月】７月

【講師】前期２人（うち、日本語教師 ２人）、後期２人（うち、日本語教師 ２人）

【関係機関との連携】なし

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

（２）館林市国際交流協会

【名称】館林市国際交流協会日本語教育推進事業（日本語教室）（既設、一部新設）

城沼日本語教室、長屋門日本語教室、分福日本語教室、たてばやしスタディールーム（新設）

【目標】地域の日本語教育を推進することで、外国人に幅広い日本語学習の機会を提供する。

【実施回数】172回（城沼39回、長屋門83回、分福37回、スタディールーム13回）

3教室 通年実施（毎週月、火、木昼、木夜）（1回1時間30分）

1教室 通年実施（毎月第2・4土）（1回1時間30分）

【受講者数】209人（城沼148人、長屋門29人、分福20人、スタディールーム12人）

【実施場所】城沼：城沼公民館 / 長屋門：鷹匠町長屋門 / 分福：分福公民館 / スタディ：六郷公民館

【受講者募集方法】チラシ、ホームページ、企業・学校への情報提供、生徒の口コミ

【内容】ボランティア講師が日本語の指導を行う。受講料は無料。指導者1人に対し生徒は1～3人程度であり、習熟度に合わせきめ細かな指導を行っている。テキスト10種類を用意し、基礎のひらがな・カタカナから始めて漢字や日常会話に至るまで段階的に難易度をあげていくようにしている。

【開始した月】4月

【講師】33人（うち、日本語教師 3人）

【関係機関との連携】館林市、館林市教育委員会

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

（3）渋川市国際交流協会

【名称】渋川市在住外国人のための日本語教室（既設）

【目標】本事業を通じ、在住外国人の日本語力向上を図る

【実施回数】68回（1回1時間30分） 8月・祝日を除く5月～3月の毎週火曜日に実施
（昼の部）10:00～11:30 （夜の部）19:00～20:30

【受講者数】37人（昼の部：12人×1か所 / 夜の部：25人×1か所）

【実施場所】渋川市国際交流協会

【受講者募集方法】渋川市国際交流協会ホームページ、募集チラシ等で募集実施

【内容】日常会話からひらがな・カタカナ・漢字の学習

【開始した月】5月

【講師】28人（うち、日本語教師 0人）

【関係機関との連携】なし

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

（4）安中市国際交流協会

【名称】安中市日本語教室（既設）

【目標】日本語ボランティアによる日本語教室を開催することで、在住外国人が日本語を学習する機会を確保する。

【実施回数】412回（1回1時間～1時間30分）

【受講者数】 41人

【実施場所】 国際交流ハウス、会社のアパート、スマイルパーク

【受講者募集方法】 随時募集。チラシや Facebook 等の SNS により、日本語ボランティアグループ等が独自で募集活動を行った。

【内容】 日本語ボランティアが地域に在住する外国人を対象に、外国人の日本語のレベルに合わせ、それぞれの課題意識に基づき個別に日本語指導を行った。

【開始した月】 4月

【講師】 8人（うち、日本語教師 0人）

【関係機関との連携】 なし

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

（５）甘楽町国際交流振興協会

【名称】 甘楽町はたらくための日本語講座（既設）

【目標】 参加受講生の日本語能力の向上

【実施回数】 8回（1回2時間）

【受講者数】 29人（29人×1か所）

【実施場所】 甘楽町図書館ら・ら・かんら、甘楽町公民館

【受講者募集方法】 外国籍社員を雇用する町内企業（事業所）へ個別周知

【内容】 町内在住・在勤の外国人を対象に、主に仕事で役立つ日本語を学ぶ講座を実施

具体的な指導内容：

第1回 開講式、オリエンテーション、受講生のレベル確認、自己紹介に役立つ日本語

第2回 かな・漢字の学習、コミュニケーションに役立つ日本語

第3回 かな・漢字の学習（続き）、コミュニケーションに役立つ日本語（続き）

第4回 かな・漢字の学習（続き）、コミュニケーションに役立つ日本語（続き）

第5回 かな・漢字の学習（続き）、日本文化体験（福笑い）を通じた日本語、
コミュニケーションに役立つ日本語（続き）

第6回 講演聴講「日本語で幸福な生活をするために学ぶこと」

第7回 かな・漢字の学習（続き）、物語から日本語の文章を読む、
コミュニケーションに役立つ日本語（続き）

第8回 かな・漢字の学習（続き）、物語から日本語の文章を読む（続き）、
コミュニケーションに役立つ日本語（続き）、閉講式

【開始した月】 11月

【講師】 2人（うち、日本語教師 0人）

【関係機関との連携】 町と包括連携協定を締結している高崎商科大学より、外国人への日本語教育に取り組む教授および外国人留学生が日本語学習サポーターとして講座へ参加、受講生の学習補助に協力。

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

・群馬県にある３市（伊勢崎市、館林市、安中市）の国際交流協会が実施する日本語学習支援者養成研修や日本語発表会、研修旅行に対して補助を行った。

（１）伊勢崎市国際交流協会

【名称】日本語ボランティア講師養成講座

【目標】日本語学習を支援するボランティアを養成

【実施回数】１０回（１回２時間）

【受講者】８人

【講師】１（うち、日本語教師 １人）

【実施時期】１０月～１２月

【実施場所】伊勢崎市絃の郷市民交流館

【受講者募集方法】広報いせさき、市ホームページ、協会ホームページ、協会 Facebook、リーフレット配布

【内容】地域における日本語教育の推進を図ることを目的に、外国人住民等の日本語学習を支援するボランティアを養成する講座を日本語教育機関へ委託し開催

「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

（２）館林市国際交流協会

【名称】館林市国際交流協会日本語教育推進事業（日本語発表会）

【目標】日頃の日本語学習成果の発表する場を提供し、学習意欲の向上につなげる。

【概要】日本語を学習する外国人たちが、１人５分以内で日頃日本での生活を通して感じていることや将来の夢・希望などについて、日本語でスピーチを行う。発表者には、表彰状及び参加賞を贈呈。地域の日本人にも観覧してもらい、多文化共生社会への理解促進を図る。

【開催日時】３月３日（日）10:00～12:00（２時間）

【実施場所】西公民館講堂

【受講者募集方法】チラシ、ホームページ、広報紙、日本語学級への情報提供

【対象者】市内在住、在勤、在学の日本語を母語としない人

【参加者】発表者３４人（小学生１４人、中学生１５人、一般５人）

観覧者８０名、協会ボランティア２６名

【内容】10：00 開会挨拶

10：10 発表３４名（エントリー３７名 当日欠席３名）

講評・表彰状・記念品授与

11：30 来賓祝辞 館林市長

11：40 記念撮影

11：50 閉会 発表者インタビュー（ケーブルテレビ・新聞）

【名称】日本語教室研修旅行

【目標】日頃日本語教室で学んだ日本語を使い実際に日本人とコミュニケーションをとる等、日本語学習の実践の場を提供することで、学習の定着、学習意欲の向上及び日本文化への理解を深める。

【開催日時】 9月17日（日）7:00～17:00

【行先】日光市

【対象】日本語教室生徒・講師

【参加者】58人

【内容】日本語教室に通う生徒を対象にバス旅行を実施し、日頃学んだ日本語でのコミュニケーションを実践するとともに、日本の歴史・文化を理解する機会を提供。訪問前に日本の文化・歴史について事前学習を行った。昼食は、ムスリムの参加者に配慮し全員がハラル料理を食べた。フルーツパークでぶどう狩りをして教室内の親睦を深めた。

- ・湯滝・華厳の滝見学
- ・昼食（ハラル料理）
- ・東照宮見学
- ・フルーツパーク見学

（3）安中市国際交流協会

【名称】日本語ボランティア養成講座

【目標】日本語ボランティアの教え方のレベル向上と、日本語ボランティアの人員の増加を図る。

【開催日時】 2月4日（日）10:00～12:00（2時間）

2月18日（日）9:30～12:00（2時間30分）

【実施回数】全2回

【受講者数】17人

【実施場所】あんなかスマイルパーク（安中市原市）

【受講者募集方法】安中市広報に掲載・募集チラシの配布

【内容】日本語ボランティアとして活動できる方を対象に、日本語を教えるための基礎知識、生きた日本語を教えるための実際の会話レッスンの仕方を学ぶ講座を実施した。

【講師】高橋知子^{のりこ}氏

【開始した月】2月

【関係機関との連携】なし

「日本語教育の参照枠」や、生活 Can do 等の活用の有無：なし

5 主要な取組の実施状況

令和5年4月	日本語教室（沼田市）～2月
--------	---------------

	日本語教室（大泉町）～３月 日本語教室（館林市国際交流協会）～３月 日本語教室（安中市国際交流協会）～２月
５月	総合調整会議（第１回）（群馬県） 日本語教室（前橋市）～２月 日本語教室（伊勢崎市国際交流協会）～２月 日本語教室開始（渋川市国際交流協会）～３月
６月	
７月	外国人日本語学習支援ボランティア養成講座（群馬県）～１２月 地域日本語教室ミーティング（群馬県） 日本語教室（オンライン）（伊勢崎市国際交流協会）～２月
８月	
９月	日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修（第１回）（群馬県） 日本語教室研修旅行（館林市国際交流協会）
１０月	日本語学習支援ボランティア養成講座（群馬県）～１２月 日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修（第２回）（群馬県） 日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修（講演会）（群馬県） 日本語ボランティア講師養成講座（伊勢崎市国際交流協会）～１２月
１１月	総合調整会議（第２回）（群馬県） 日本語教室開始（甘楽町国際交流振興協会）～１２月
１２月	
令和６年１月	日本語学習支援ボランティア養成講座（沼田市）～２月
２月	総合調整会議（第３回）（群馬県） 地域日本語教室巡回（群馬県）～３月 日本語ボランティア養成講座（安中市国際交流協会）
３月	日本語発表会（館林市国際交流協会） 下旬 事業終了、実績報告書の提出

６ 評価と検証

１．令和５年度の計画の評価と検証方法
【令和５年度の目標】（再掲） ・前年度に実施した中間評価を基に、県全体の日本語教育の方針を検討する。 ・日本語学習支援者へオンライン技術の向上の機会を提供することにより、人材不足の解消や多様化するニーズへの対応を図る。 ・県内各地で活躍する日本語学習支援者が互いに課題を共有しネットワークを構築できる場を提供するこ

とや、地域日本語教育コーディネーターによる教室視察や助言を行うことにより、地域日本語教室の更なる活性化を図る。

・文化庁の補助金や、教室開設・運営に必要なノウハウを提供することで、空白地域における日本語学習環境の整備を支援する。

【令和5年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

本事業では、日本語教育現場の状況把握や県全体の方針の検討、日本語教育人材の確保やオンライン技術の向上のために、以下の取組を主たる取組として実施した。

- ・有識者や日本語教育関係者による評価と方針の検討（総合調整会議）
- ・地域日本語教室関係者の交流の場創出とコーディネーターによる助言（地域日本語教室ミーティング）
- ・地域日本語教室の現状把握とコーディネーターによる助言（地域日本語教室巡回）
- ・新規日本語教育人材の育成（日本語学習支援ボランティア養成講座）
- ・既存の日本語教育人材の資質・能力向上のためのスキルアップ研修の実施（日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修）

これらを有機的に連携するための指標として以下の点から評価を行った。

【指標1：定量評価目標】

日本語学習支援ボランティア養成講座（日本人・外国人）参加者数

※オンライン学習支援技術に関する内容及び方法で実施

○目標値 45名（前年 43名）

○実績値 40名

○評価 目標値・前年値とも下回った。特に外国人の参加者が減少したため、周知等に検討が必要。

【指標2：定量評価目標】

日本語学習支援ボランティアスキルアップ研修参加者数

※オンライン学習支援技術に関する内容及び方法で実施

○目標値 80名（研修：20名×2回、講演会：40名×1回）（前年 75名）

○実績値 118名（研修：32名・30名、講演会：56名）

○評価 目標値を大幅に上回ることができた。

【指標3：定量評価目標】

地域日本語教室ミーティング 日本語学習支援者の参加者数

○目標値 30名（前年 28名）

○実績値 23名

○評価 目標値・前年値とも下回ったが、回数が3回から1回に減少したため、1回あたりの参加者は増加した。

【指標4：定性評価目標】

地域日本語教室ミーティング 参加者の満足度

○目標値 90%（前年 81.8%）

○実績値 70.0%

○評価 目標値・前年値とも下回った。「時間が短い」と回答した参加者が75%おり、時間と内容の不均衡が満足度低下の要因と考えられる。「せっかくの機会・内容なのでもっと時間が長くてもよい」と前向きな意見が多数だったので、開催意義はあったと言える。来年度へ向けて内容と時間の再考が必要。

【指標5：定性評価目標】

地域日本語教育コーディネーターによる教室巡回 巡回先教室の満足度

○目標値 80%（前年 未実施）

○実績値 未計測

○評価 実施回数と実施時期の変更により、巡回先教室向けのアンケートを実施しなかった。

【指標6：定量評価目標】

本事業を活用し地域日本語教室を開催する市町村等の数

○目標値 10団体（前年 8団体）

○実績値 9団体

○評価 目標値には達しなかったが、前年値を上回った。

【検証方法】

指標1、指標2、指標3、指標6については、本県において数値を把握した。

指標4については、終了後にアンケートを実施して把握した。

以上の指標を第1回総合調整会議に提示、第3回総合調整会議で結果を報告し評価を得た。

【その他】

—

2. その他、令和5年度事業の評価と検証方法

—

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

（1）検証を踏まえた課題

下記の課題がある。詳細や対応については後述。

①地域日本語教室の安定的運営と活性化

- ・新規人材の養成
- ・関係者の情報交換や課題共有

- ・市町村や国際交流協会との連携強化

②日本語教室未設置地域での日本語教育推進

- ・新規人材の養成
- ・市町村や国際交流協会との連携強化

(2) 今後の展望

- ・新規人材の養成（日本語学習支援ボランティア養成講座（日本人・外国人））

養成講座参加者が減少しているため、より多くの新規人材に参加してもらうため、開催地・開催方法・開催時期・内容・周知方法等を再検討する。また、養成後の人材が速やかに希望地域で活動できるよう、各地域の日本語教室や市町村、国際交流協会や関係各所と連携し、サポートする。外国人が外国人に日本語を教えるニーズが高まっているため、効果的な周知を行い、より多くの外国人材を養成する。

- ・関係者の情報交換や課題共有

地域日本語教室の活性化のため、教室間で課題や情報を共有できる関係性の構築を支援する。従来は地域ごとの情報共有を主としていたが、今年度初めて全県での共有の場を設けた。内容と時間には再考が必要だが、開催を希望する声が多かったため、より有効な場になるよう工夫をして継続開催する。個々の教室間の情報交換だけでなく、全県共通での情報やツールの共有を検討したい。

- ・市町村や国際協会との関係強化

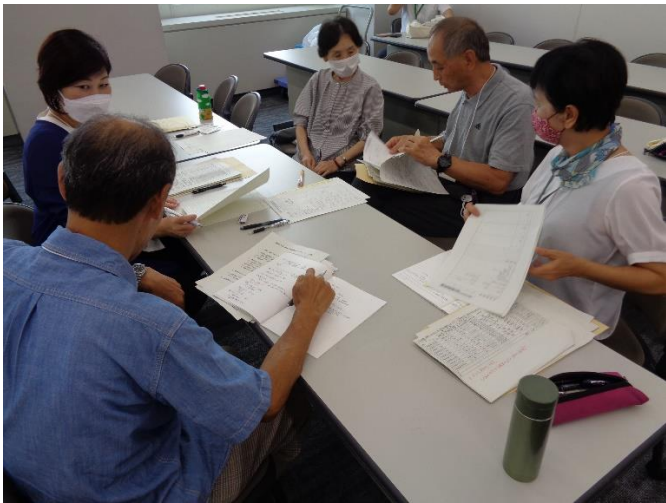
すでに日本語教室が開設されている自治体には安定運営や活性化のため、また空白地域には日本語教室の開設のため、情報提供や本事業の活用促進等の支援を行う。空白地域市町村から現状やニーズを聞き取り、希望に応じた地域日本語教育環境が整備できるよう伴走支援をする。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

(1) 課題と困難な状況への対応方法

—

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
1-④-1	地域日本語教室ミーティング
	
1-④-2	地域日本語教室巡回
	
1-⑥-2	外国人日本語学習支援ボランティア養成講座
	

【参考資料一覧】（令和５年度以降は、主要な成果物（報告書、教材等）に限る。）

取組番号	資料名	NEWS 掲載
－	－	－